

2011年6月22日
東日本旅客鉄道株式会社

SL「C61 20」復元工程のドキュメンタリー作品の テレビ放映について

JR東日本では、2010年1月より行っておりましたSL「C61 20」の復元工程を、映画監督の山田洋次氏から撮影・映像化したいとの依頼を受け、SLの復元という貴重な工事を映像として後世に残すことが出来るという観点から、全面的な撮影協力を行ってまいりました。

このほど、そのドキュメンタリー作品が完成し、テレビでの放映が決まりましたのでお知らせいたします。

1.内容

- ・タイトル「復活 ～山田洋次・SLを撮る～」
- ・放送予定 2011年7月16日(土)21:00～ NHKスペシャル
- ・時間 73分

2.制作スタッフ

- ・企画・構成・監督 山田洋次(やまだ ようじ)
- ・ナレーション 吉永小百合(よしなが さゆり)
長谷川勝彦(はせがわ かつひこ)
- ・撮影 近森眞史(ちかもり まさし)
- ・音楽 富田勲(とみた いさお)
- ・制作 住友商事・NHKエンタープライズ

3.見どころ

群馬県の華蔵寺公園で静態保存されていた「C61 20」が運ばれるところから、ボイラー修理やJR東日本大宮総合車両センターでの組み立て・構内での試運転を経て、上越線で旧型客車を引く試運転の様子までが記録されています。この機会にしか見ることができない貴重なシーンが、山田監督により映像として記録されています。

復活までの道のり

2010年1月19日、ボイラー、動輪、炭水車の3つに分けられた同機は、それぞれ大型トラックに載せられて華蔵寺公園を発ち、復元作業が行われる大宮総合車両センターを目指して陸送されました。



ボイラー



動輪



炭水車

作業が開始されると、車体には多くの箇所^{けそうじ}に修繕が必要であることが判明しましたが、既に同機の部品で新たに製造されているものはないため、破損している部品は新たに作るか、修繕して使用されました。

また、大宮総合車両センターの社員も当時を知る数少ないベテラン社員から、若手社員まで多くの人の手が作業に携わることで、技術継承が行われました。



全体の約4割が腐食していたため、大阪まで運ばれて大幅な修繕が施されたボイラー



細部まで解体されて修繕が行われた動輪

一連の修復作業が終わると、大阪で修繕されていたボイラーは再び大宮総合車両センターに運ばれ、クレーンによって吊り上げられたボイラーと、地上の動輪を寸分たがわず組み合わせる『車体載せ』という作業が行われました。

そして、その後も続く細部の修復作業が終わると、同機は長い眠りから目覚めました。



クレーンを操る作業員と地上で合図を出す作業員双方の息のあった車体載せ作業



車体載せが完了し、SLらしい姿を取り戻した



車体の4ヶ所に形式プレートが取り付けられた

これからのC61形20号機

38年前、一度は役目を終えた同機が約1年の歳月を経て再び命を吹き込まれました。今後は7月からの「群馬デスティネーションキャンペーン」を盛り上げると共に、その後も上越線や信越線を中心に活躍するほか、その他の線区についてもイベント等での運行を検討します。



火入れ式



展示会



営業運転初日の6月4日、高崎駅では復活を記念した出発式が行われた